

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100225		
法人名	社会福祉法人 大幸福社会		
事業所名	プレミアムグループホーム フレンズハウス小川 1階		
所在地	名古屋市港区小川一丁目105番地		
自己評価作成日	令和2年8月3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2391100225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人一人の生活レベルを維持し、生活スタイルを可能な限り崩さないようルールはできる限り設けず、各入居者様の残存能力を発揮できるように家事等を行って頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺は田畑が広がるのどかな町並みから、近年、道路の拡張や大型ショッピングセンター、商店などが立ち並び街並みとなっている。また、田畑が少し残る住宅地の一角に事業所があり、近くには同法人の複合型老人福祉施設がある。2階建て、リゾートホテルを思わせるような事業所は開設して3年目を迎え、ユニットはヨーロピアン風と京町風に分かれ、格調高いゆったりとした大人の佇まいを感じる住空間となっている。法人の理念「感謝のおもてなし、優しさ笑顔で、日々感謝の心」を職員間で共有し、入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。楽しい食事は、入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを立て食事作りをしている。好きなお酒を食事と共に嗜んだり、調味料やお茶タイムなどの嗜好品なども、本人の好みや舌に合うように選択ができるようにしている。また、外国籍のスタッフにより、エスニック風に味付けされた食事も話題となっている。管理者やスタッフの異動やコロナ禍などで踏み止まっているケアや催し物なども状況を見て再開できるように心積もりをしながら支援に努めている。日々、穏やかに過ごせるように今できることを考えてケアに活かすようにしている。広く明るい雰囲気のある居間で、趣味の琴を奏でたり、じっくり新聞を読んだり、談笑をしたりして、のんびりとそれぞれの生活スタイルに合わせて過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等でも理念を復唱し、常に意識付けを行っている。	法人の理念を職員更衣室に掲示している。管理者は日々のケアの中で目配りや気配りをしながら職員の育成に力を注いでいる。処遇会議やカンファレンス等で理念を復唱し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら実践に努めている。	開設3年目を迎えるにあたり、法人の理念に基づいた事業所理念を、職員皆で話し合い作成し、日々の実践に繋げることを期待したい。また、理念は誰もが見て確認できる場所に掲示し、日々共有と実践に繋げることを望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や外出行事で近所の方等に挨拶を行っている。	法人と事業所共に町内会に加入し、地域の福祉や防災の拠点となっている。回覧等で得た情報を基に地域の行事に参加したり、同法人施設が開催する祭や施設に併設しているローズカフェで行う認知症カフェ等で地域の方々との交流をしているが、現在はコロナ禍の中、それぞれが中止となっている。日々の散歩で行き交う地域の方々との挨拶程度の交流をしている。子ども110番の家や小・中学校・保育園等との交流も時期を見て再開や実施を考慮している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動等を自主的に行い、その活躍する姿をSNSでも取り上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各事業所の方、関係者の方等と情報交換を行っている。	事業所運営規定では利用者、利用者家族、地域の代表者、市町村職員又は地域包括支援センター職員、その他認知症対応型共同生活介護について知見を有する者で構成するとしているが、参加者が限られている。コロナ禍により、5月から書面での開催となっている。今後、開催時には地域の町内会や老人会、民生委員などにも案内を出す方向で検討している。	運営推進会議は事業所が地域に密着し、地域に開かれた、透明性のある運営をするために開催され、地域や家族、行政を含めた多種多様の出席者に事業所の運営やサービス状況を報告し、出された意見や要望、アドバイス等を話し合い運営やサービス向上に活かすことを目的としている為、家族や地域からの出席を得る工夫を願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な連絡は取っているが、積極的ではない。	介護保険更新手続きや事故報告など必要な連絡は取っているが、新型コロナ感染予防の観点からメールや書面での連絡が多くなっている。名古屋介護ネットを中心に連携を図っている。行政からの研修もコロナ禍で中止になることも多く参加できていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する内部研修に参加し、理解を深めている。	身体拘束に関する法人の研修が年4回、事業所独自で年2回行っている。身体拘束適正化委員会は、法人合同で行っており、事業所で話し合ったことを法人で検討している。日々のケアでは言葉の言い切りなどのスピーチロックに留意している。玄関は安全のため施錠しているが、施設内の行動は自由で拘束感のない環境が整えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修に参加し、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者との相談はできているが、理解について学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得して頂けるまで、説明を行っている。又、不要なサービスまで使用しないよう、個々にサービスの説明を行い、本人や家族の意思を尊重した契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は常に迅速に取り入れ、反映できるように努めている。	入居者からは日常ケアの中で、家族からは面会時等に意見や要望を聞き、出来ることは迅速に取り入れ反映できるように努めている。得た情報は職員ノートに記録しケアに活かしている。コロナ禍の中、面会や外出規制があったが、10月から法人の指示もあり、家族の面会はマスク着用で対面で出来る様になり、外出も可能となった。フレンズ通信を2か月毎に発行し家族の安心につなげている。意見箱の設置をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見も取り入れやすい環境づくりを行い、迅速に反映できるように努めている。	月1回の処遇会議や日々の申し送り時等、職員が意見を出しやすい環境作りに努めている。より詳しい職員の意見や要望等を得るために、職員アンケートの実施を検討している。人事考課は管理者のみの実施している。外国籍の職員や経験の浅い職員が多いため、管理者は目配り、気配りを欠かさず職員の意見に耳を傾け運営に反映させると共に職員育成に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じ、昇格を行っている。施設に愛着を持ってもらえるよう、多種の仕事を任せ、経過の評価や結果への助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加してもらい、実践では失敗を体験してもらい、失敗する理由も学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、地域の施設等にもかかわりを持ち、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面談を行い、問題や不安要素等を調査し、安心して生活して頂けるように環境を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に面談を行い、問題や疑問点等を調査し安心して契約、利用できるように説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービス全体を見渡し、ご本人様の現状を維持、向上できる最適なサービスをご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人目線で物事を考え、同居者としての立場を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には連絡を密に行い、共同でご本人様を援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙等の通信手段を提供し、面会や外出、外泊も行って頂いている。	フェイスシート等で情報を得たり、本人からの話の中で希望や要望を聞くようにしている。馴染みの美容院に行く人もあり、希望があれば墓参りや外泊等支援をしているが、コロナ禍で、踏み止まっている。趣味の琴や電話、手紙等の支援や食事の手伝い、洗い物など日常の家事仕事を通して今まで培ってきた経験を日常に生かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、座席や声掛けに配慮し相性のよし悪しを把握、安心して過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族等と連絡を取り合い、可能な範囲で本人、家族の支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご希望通りの暮らし方に可能な限り沿えるよう努めている。	出来るだけ本人の意向に沿った暮らし方、無理強いない暮らし方を支援している。傾聴に努めながら、個々の個性を捉えて入浴時やちょっとした時間に思いを聞くこともある。ビール(ノンアルコール)や喫煙の支援にも対応している。意思疎通が困難な時は本人本位に検討したり家族の協力を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等をご本人様やご家族様等から聴取し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事等を行って頂く中で、可能な範囲を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員や家族、関係者に相談し、計画をしている。	毎月のケアカンファレンスで情報交換をし、3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しをしている。本人の意向や家族の希望などを居室担当を中心に話し合い、医療関係者などの意見も参考にして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、ケアプラン実施記録に記録し		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい要望、希望に前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、それぞれの生活スタイルに合った活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連携し、本人、家族等の希望に沿って医師の指示を仰いでいる。	入居時にかかりつけ医か協力医かの希望を聞いている。かかりつけ医や専門医の場合は基本的に家族の協力を得ている。受診結果は家族から情報を得て記録、周知しケアに活かしている。協力医の内科往診が月2回、皮膚科や歯科は月1回、訪問看護が月2回あり入居者の健康管理に努めている。24時間の医療連携を取り、迅速で適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に電話連絡等で確認や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供、相談を密に行い入院期間を短縮できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針を説明し、同意を得ている。	重症化や終末期に向けた方針については契約時に、事業所の方針を説明し同意を得ている。法人として看取りは行わない方針であるが、近年の社会情勢からみて見直しを考えている。	入居時に、事業所の方針に同意を得ている。施設の特徴から、入居者はいつどのような身体変化が起きるか予測がつきにくい。その時に備えて、職員間で救急対応やメンタル面の研修を早めに行い、日頃からの備えをしていくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師との連携環境は整えているが、定期的な訓練を実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行い、災害に備え協力体制を築いている。	年2回災害訓練を行っている。昼間と夜間の火災を想定した、通報や避難訓練を行い、津波を想定した訓練では消防署の指導を受けている。同法人の入所施設と地域が共同で行う災害訓練には入居者と共に参加し協力体制を築いているが、当該施設と近隣地域との繋がりが協力体制は出来ていない。備蓄は食品3日程度、ラジオ、ヘルメット、ビニール袋等を2階スペースに準備している。	運営推進会議が開催された時には、地域の代表者に参加を願い、町内会との協力体制について話し合われることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として、人生の先輩としての対応をしている。	人生の先輩として対応することを基本姿勢とし、ひとり一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに留意しながら本人本意に、やりたいことを自由に行える支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聴取するが、難しい場合は選択肢を用意して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安となるルールは設けているが、基本的には個人に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣装や、希望に沿った衣類の購入をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を反映し、季節感のある食材や行事食も提供している。	入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを立て、食材は配達業者を利用している。コロナ禍の前は入居者と買い物に行く事もあった。コロナ禍の中、楽しみな食事には特に力を入れている。季節感のある食材や行事食、おやつ作りも楽しみとなっている。栄養士の資格を持つ職員が栄養面等をチェックしている。職員は食事の見守りや介助に徹している。入居者は職員の見守りの中、保有能力を活かしながら食事の準備や後片付けなど自発的に行っている。	作ったものが美味しいか、食材の硬さや味付けなど職員と一緒に食べて見ることも大切と思われる。入居者と食の話題を共有したり、検査係の役割として検査日誌をケアに活かしていく意味でも、入居者と食事を共にすることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望に沿ったメニューに工夫をし栄養面も加味している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、自ら口腔ケアを行って頂き、一部確認や支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄タイミングに合わせた定期誘導でトイレでの排泄を促している。	排泄チェック表を基に個々のタイミングに合わせた声掛けや誘導を行っている。車いす使用で夜はオムツ使用の方も昼間はトイレでの排泄を支援している。便秘予防には食べ物や運動、水分摂取を勧め、出来るだけ自然排便を促している。粗相をしたときは、プライバシーに配慮しながら自尊心を傷つけない様支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事、水分で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番や日時がある程度決まっていますが、希望があれば変更をしている。	入浴は2日に1回、日時や順番を決めて支援しているが、希望があれば変更や毎日の入浴にも対応している。湯はひとり一人取り換え、足ふきマットの交換も行い清潔に留意している。シャンプーは好みの物を個々に使用している。柚子湯や菖蒲湯等季節の湯も楽しんでいる。冬季はヒートショックに注意し、入浴拒否の方への誘い方や誘導の仕方を工夫しながら支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明、処方箋の確認で理解し、支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ生活を楽しんで頂けるよう、積極的に趣味や嗜好を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った場所や買い物の外出を行っている。家族等にも協力を得ている。	コロナ禍の中、面会や外出が規制されていて思うような支援が出来ない状況であるが、毎日の散歩は、天候が良い時は出かけ、四季の移ろいを楽しんでいる。状況を考慮して、家族の協力も得ながら希望に沿った外出支援が出来るよう計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人管理して頂き、欲しいものがあれば買い物へ一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡は自由にして頂き、必要な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光量、空調等は全員の希望の中間をとっている。	それでもそれぞれのユニットはヨーロッパと京町風に分かれており、ゆったりとした居間は余分な装飾もなく、すっきりとした大人の空間となっている。コロナ禍の折、窓を開け空気の入れ替えに気を配りながら温、湿度を適宜に保ち、不快な音や光等もなく穏やかな空間となっている。掃除も出来る方は職員と一緒にしている。入居者は趣味の琴の練習をしたり、職員と談笑したり自由な時間を過ごしている。	明るく広い居間でゆったりくつろげる場所としてソファなどを設置して、更に、心地よい空間が広がるのを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所を使って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に沿って居室内の家具等のレイアウトをしている。	入居時に家族と相談して使い慣れた家具や小物、写真などを持ち込み、カーテンも好みの物をかけ、その人らしい生活空間となっている。趣味の琴を持ち込み居室で練習したり、居間で演奏されることもある。掃除も行き届き清潔な部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	固定観念にとらわれず、自宅だと思ってもらえるように自由にその人らしい生活をして頂きたい方針がある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391100225		
法人名	社会福祉法人 大幸福社会		
事業所名	プレミアムグループホーム フレンズハウス小川 2階		
所在地	名古屋市港区小川一丁目105番地		
自己評価作成日	令和2年8月3日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2391100225-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人一人の生活レベルを維持し、生活スタイルを可能な限り崩さないようルールはできる限り設けず、各入居者様の残存能力を発揮できるように家事等を行って頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺は田畑が広がるのどかな町並みから、近年、道路の拡張や大型ショッピングセンター、商店などが立ち並び街並みとなっている。また、田畑が少し残る住宅地の一角に事業所があり、近くには同法人の複合型老人福祉施設がある。2階建て、リゾートホテルを思わせるような事業所は開設して3年目を迎え、ユニットはヨーロピアン風と京町風に分かれ、格調高いゆったりとした大人の佇まいを感じる住空間となっている。法人の理念「感謝のおもてなし、優しさ笑顔で、日々感謝の心」を職員間で共有し、入居者それぞれに寄り添った支援に努めている。楽しい食事は、入居者の希望を踏まえながら職員がユニットごとにメニューを立て食事作りをしている。好きなお酒を食事と共に嗜んだり、調味料やお茶タイムなどの嗜好品なども、本人の好みや舌に合うように選択ができるようにしている。また、外国籍のスタッフにより、エスニック風に味付けされた食事も話題となっている。管理者やスタッフの異動やコロナ禍などで踏み止まっているケアや催し物なども状況を見て再開できるように心積もりをしながら支援に努めている。日々、穏やかに過ごせるように今できることを考えてケアに活かすようにしている。広く明るい雰囲気のある居間で、趣味の琴を奏でたり、じっくり新聞を読んだり、談笑をしたりして、のんびりとそれぞれの生活スタイルに合わせて過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等でも理念を復唱し、常に意識付けを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩や外出行事で近所の方等に挨拶を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃活動等を自主的に行い、その活躍する姿をSNSでも取り上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各事業所の方、関係者の方等と情報交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な連絡は取っているが、積極的ではない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する内部研修に参加し、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての内部研修に参加し、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者との相談はできているが、理解について学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得して頂けるまで、説明を行っている。又、不要なサービスまで使用しないよう、個々にサービスの説明を行い、本人や家族の意思を尊重した契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は常に迅速に取り入れ、反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見も取り入れやすい環境づくりを行い、迅速に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じ、昇格を行っている。施設に愛着を持ってもらえるよう、多種の仕事を任せ、経過の評価や結果への助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加してもらい、実践では失敗を体験してもらい、失敗する理由も学んでもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、地域の施設等にもかわりを持ち、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面談を行い、問題や不安要素等を調査し、安心して生活して頂けるように環境を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に面談を行い、問題や疑問点等を調査し安心して契約、利用できるように説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービス全体を見渡し、ご本人様の現状を維持、向上できる最適なサービスをご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人目線で物事を考え、同居者としての立場を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には連絡を密に行い、共同でご本人様を援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙等の通信手段を提供し、面会や外出、外泊も行って頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、座席や声掛けに配慮し相性の良し悪しを把握、安心して過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族等と連絡を取り合い、可能な範囲で本人、家族の支援を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のご希望通りの暮らし方に可能な限り沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等をご本人様やご家族様等から聴取し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事等を行って頂く中で、可能な範囲を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員や家族、関係者に相談し、計画をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、ケアプラン実施記録に記録し		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しい要望、希望に前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、それぞれの生活スタイルに合った活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連携し、本人、家族等の希望に沿って医師の指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に電話連絡等で確認や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供、相談を密に行い入院期間を短縮できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針を説明し、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師との連携環境は整えているが、定期的な訓練を実施していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を行い、災害に備え協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として、人生の先輩としての対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聴取するが、難しい場合は選択肢を用意して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安となるルールは設けているが、基本的には個人に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣装や、希望に沿った衣類の購入をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望を反映し、季節感のある食材や行事食も提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望に沿ったメニューに工夫をし栄養面も加味している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り、自ら口腔ケアを行って頂き、一部確認や支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄タイミングに合わせた定期誘導でトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事、水分で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番や日時がある程度決まっていますが、希望があれば変更をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、自由に休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の説明、処方箋の確認で理解し、支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ生活を楽しんで頂けるよう、積極的に趣味や嗜好を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿った場所や買い物の外出を行っている。家族等にも協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り本人管理して頂き、欲しいものがあれば買い物へ一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	連絡は自由にして頂き、必要な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光量、空調等は全員の希望の中間をとっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所を使って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に沿って居室内の家具等のレイアウトをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	固定観念にとらわれず、自宅だと思ってもらえるように自由にその人らしい生活をして頂きたい方針がある。		